

論文審査の結果の要旨

氏名：秋 本 卓 哉

専攻分野の名称：博士（医学）

論文題名：早産児における高直接ビリルビン血症の頻度と発症予測因子の検討

審査委員：（主 査） 教授 越 永 從 道

（副 査） 教授 川 名 敬 教授 木 暮 宏 史

教授 三 木 敏 生

本論文は、早産児における高抱合（直接）型ビリルビン血症に着目し、その特徴と要因、発症に関わる因子を明らかにすることを目的としている。過去 2 年間 NICU（新生児集中治療室）に入院した在胎 34 週未満の早産児のうち基礎疾患のない児を対象に、高抱合（直接）型ビリルビン血症を示す児の発症頻度を調べた。また高抱合（直接）型ビリルビン血症群と非高抱合（直接）型ビリルビン血症群との比較により、患者背景、母児因子、を調べ発症の予測因子を検討した。その結果、入院患児 131 人中、高抱合（直接）型ビリルビン血症を示す患児は 16 人（12%）であった。高抱合（直接）型ビリルビン血症患児では、在胎週数、出生体重、Apgar score5 分値が有意に小さく、塩酸リトドリンを使用しているものは結果的に少なかった。また経腸栄養確立までの日数が多いことがわかった。

以上から、在胎 34 週未満の早産児の高抱合（直接）型ビリルビン血症は NICU 入院早産児の 12%にみられ、在胎週数が短いほど発症頻度が多い傾向があり、発症リスクも大きいことがわかった。以上のとおり、本研究は学術的および臨床的意義は高く、学位論文として価値のあるものと思われる。

よって本論文は、博士（医学）の学位を授与されるに値するものと認める。

以 上

令和 5 年 2 月 22 日